

あがつま

『希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです』

(ローマの信徒への手紙 5章5節)



♪ 賛美歌を歌おう⑩
『すみわたる大空に』

(讚美歌第二編 144番)

ドイツでは子守歌としても親しまれているこの賛美歌は、牧師で、寓話作家としても知られたヨハン・ヴィルヘルム・ヘイ(1789-1854)によって創作されました。

牧師家庭に生まれたヘイは、幼くして両親と死別し、弟のカールと2人で暮らしていたそうです。神学を学び牧師となつた彼は、職人見習いのための訓練学校や児童養護施設といった慈善活動にも携わり、1847年にはハイデルベルク大学神学部より、『ドイツの若者全員にとって多大な功績を残した人物』として名誉博士号を授与されています。また、ヘイは『子供のための50の寓話』を出版したこと

で寓話作家としても有名になりました。

この歌は民謡研究で「なぞなぞの歌」に分類されています。ドイツ語の原詞では『青い空に小さな星がいくつあるか知っていますか?』『世界中にどれだけの雲があるのか知っていますか?』と優しく問いかけ、人間にはとうてい計り知ることのできないそれらを、神様は一つも欠けることなく全て数えておられると歌っています。

メロディは、歌詞よりも古くからあるドイツの民謡的旋律だそうです。神の臨在を感じつつ、この優しい賛美歌を歌いましょう



(稲垣)

